







SUPER



# キルミードスケベイバー-SUPER SUPERな目次インデックス

## 4 目次

5 がびよめの

23 すめぎ

25 66b

27 深窓小町

31 モトカズ

33 Klu

36 榛原

38 夕餉

40 深窓小町

41 ひざきりゆうた

49 ちでん

50 たそがれ

51 にし

55 大内山川田

59 やすとく

62 深窓小町

63 まこと

67 SYUMO

70 深窓小町

71 池田

77 Diz

81 一休

82 イクキロン

83 赤柱

84 あべかわ彦左衛門X

85 はとり

89 がびよめの

90 奥付





迷子になって  
しまった



ここはいつたい  
どこなんだ

なんだ  
開かないぞ

建付けが  
よくないのか？



# 部屋ベイベー

ガビヨ布

一体どうなってるんだ



ん？

何かあるぞ

指示  
しよがえほ  
せらまほ  
うたがえほ  
おんがえほ  
おんがえほ  
おんがえほ



くそっ  
畏じゃねーか！

刺客か！  
私をどうするつもりだ

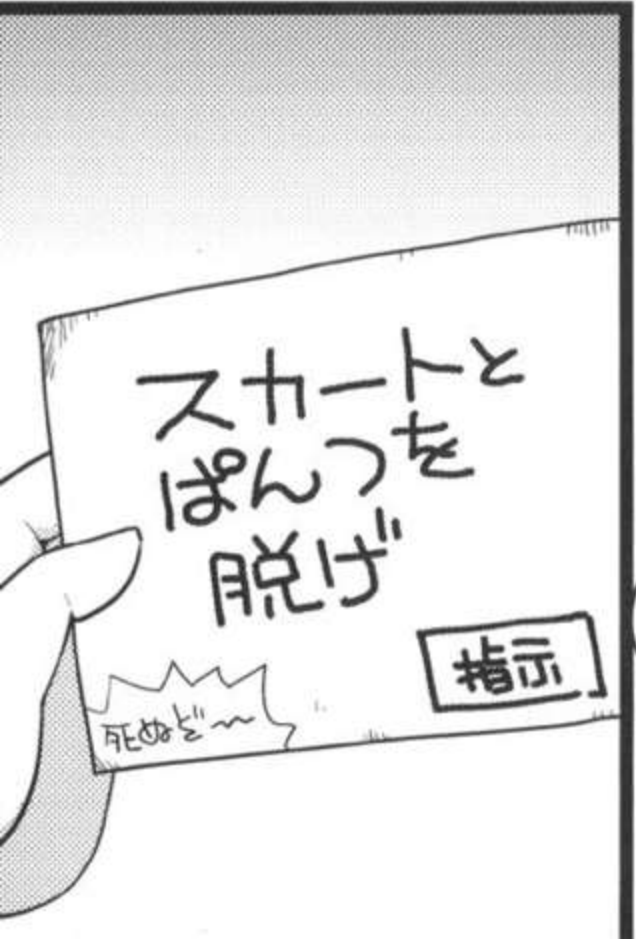


びくとも  
しないな…

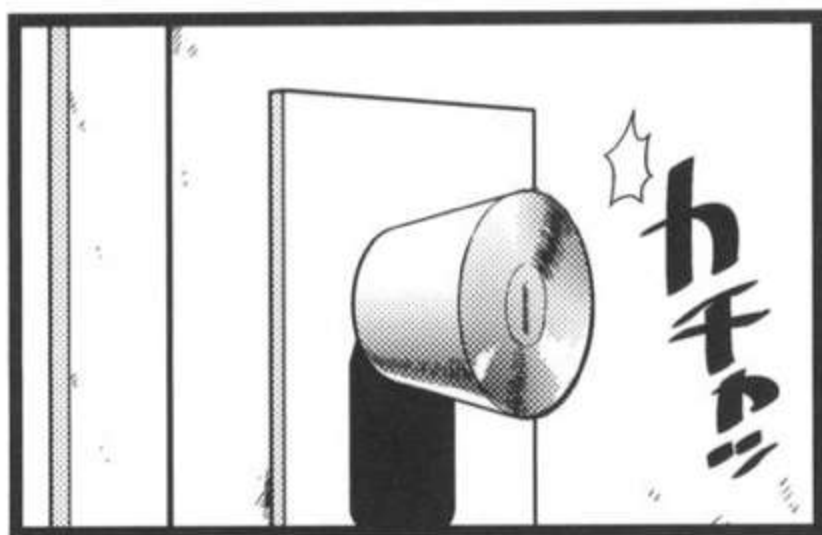


スカートと  
ぽんつを  
脱げ

指示







たまにいなな  
欲しがる変態…



これで  
文句ないか





やっぱり出せ!!  
この野郎!!

絶対殺す

ガン

ガン

ゴッ

おい

これで  
いいだろ

ヌビッ

ヌマッ...

ヌキ

無駄に  
凝りやがって

敵の姿が見えない  
戦いは苦手だ...

ウイーン

オッ

パキッ

パキッ

そのまま  
すすめ

ガッ





少し前

無料券のお店ってここかなあ？

外見はシンプルだけど  
これはきつと…

おいしかったら  
ソーニヤちゃんに  
自慢してやる

ギキギキイ……

高校生ひとり

隠れ家的名店ってやつに  
ちがいないよ！

あ…あれ  
誰もいない

ここじゃ  
なかったかな？

こつちかなあ

無料  
川原路

ドアが  
あった

あれ…  
鍵かかっているよ

何か  
書いてあるね

泥のついた靴を脱ぎ  
そして  
服を脱いでから  
お入りください

ガキ  
ガキ  
ガキ





まだ  
だめなの!?

その次の部屋



えー

もっと  
脱ぐこと



脱ぐ?  
ふふんそういう事か

これだけでも  
脱いだことにはなるはず!!

ネクッターーイ



おっ開いた

どんな料理が  
待っているのかな

カキヤ...



うん きつとそうに  
ちがいないね!

脱ぎ

かご

ッ

さては:  
全身で味わうレストランとか  
そういうジャンルなのかな



扉が開くまで時間  
があるので、しばらく  
遊んどお待ちください

なんだこれ



今度は  
なにかな

ちよとワクワク  
してる

なーんだ  
まだまだ部屋が  
続くのか









なんて？  
なんて？

おそろしくここの扉も  
何らかの要求をクリア  
すれば開くんだが…

うる  
さい!!



えっ  
なんて下  
はだかなの？

話を  
聞け

いやまあ大体わかる…  
閉じ込められて無茶な  
要求を出されたんだろう？  
わたしがこんな格好なのも  
そのせいで…



何  
やってんだ

ホワッ  
ソーニヤちゃん

# 生えっちするまで出られません



いや  
しかし

これで開くかも  
しれないじゃん

ものは試し  
だよ!



## KISSMEBABY

何のつもりだ



ソーニヤちゃん



## ちゅっ

止むを得ん



もー… 緊急時なんだから  
何したっていいんじゃないかなあ…



## ONE MORE

ワンモアチャンスだよ  
来てソーニヤちゃん

お前…



やっぱり  
チューだけじゃ  
だめなんじゃ

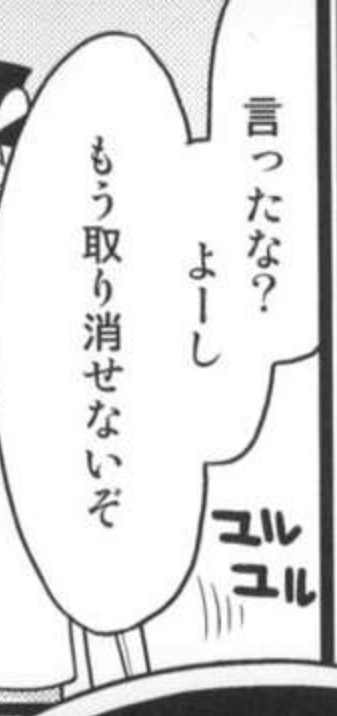
## ガッ

開かねーじゃ  
ねーかクソツツ!!

## ガッ

toys for park





あっウン  
ちよ...

言ったな?  
よーし  
もう取り消せないぞ

ああ?

ユルユル

イラッ

あ... 意外と  
触り方に優しきがある



ムムム...



さゆ...

さゆ...

さゆ...

仕方ない  
めちやくちや  
探んでる...



開く気配が  
ないな...

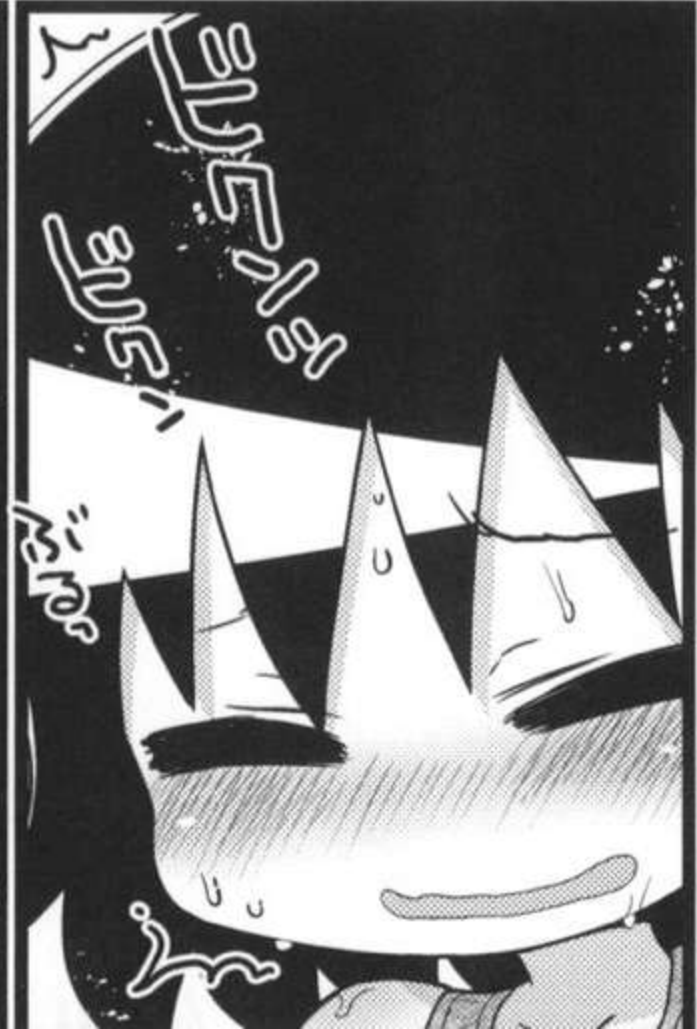
ムムム

ムムム

ムムム

ムムム





扉は開かないようだな  
次の手段だ...足を上げる









ん

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

はは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは...  
ははは...

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは

ははは





おはー

おはー

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お





はあ

はあ

はあ

ソーニヤちゃん

なんだよ…



おっ  
開いてるみたい  
だぞ

タンコブ



えっなんで  
こういう行為に  
詳しいの?  
どうして?

うるせえ!

ふー



なんで  
料理が出るんだ!?

レムシキタイ



まったく誰なんだ  
こんな民を仕組んだ奴は  
絶対殺す



閉じ込められる部屋の話は  
もうちょっとだけ続きます

少し前に起こっていたことと  
ほとんど同時に起こっていたことです











んっ♡

あん♡

どうですか〜？

アッ♡  
アッ♡

しっ  
絞られるツツ

たっぷり  
出ましたね〜♡

こんな罨  
しかけてないで、  
お料理屋さんでも  
やったらどうですか

スツキリ

ハイ…

わかりました  
から  
ゆるしてください







ん？



やすなと  
ソーニヤの  
気配がしたのに  
誰もいないぞ

またか



なっ…  
なんだこれ!?



うわあー  
やめろ  
やめ…

だれかー  
いないのか〜















わあい♪  
ソーニヤちゃんが  
ゴミを見る目で  
こっちみてる〜♪

みられたら  
ちんぽ勃って  
きちやった♥

ギシッ

ギシッ

ふ  
ーっ  
...

ふ  
ーっ  
...





ソーニーヤちゃん  
もういきそう？

おまんこ  
キュンキュン  
してる♡

ムフーッ

苦しかったら  
いつでも  
言ってね♪





# ウラベイベ

## 深窓小町







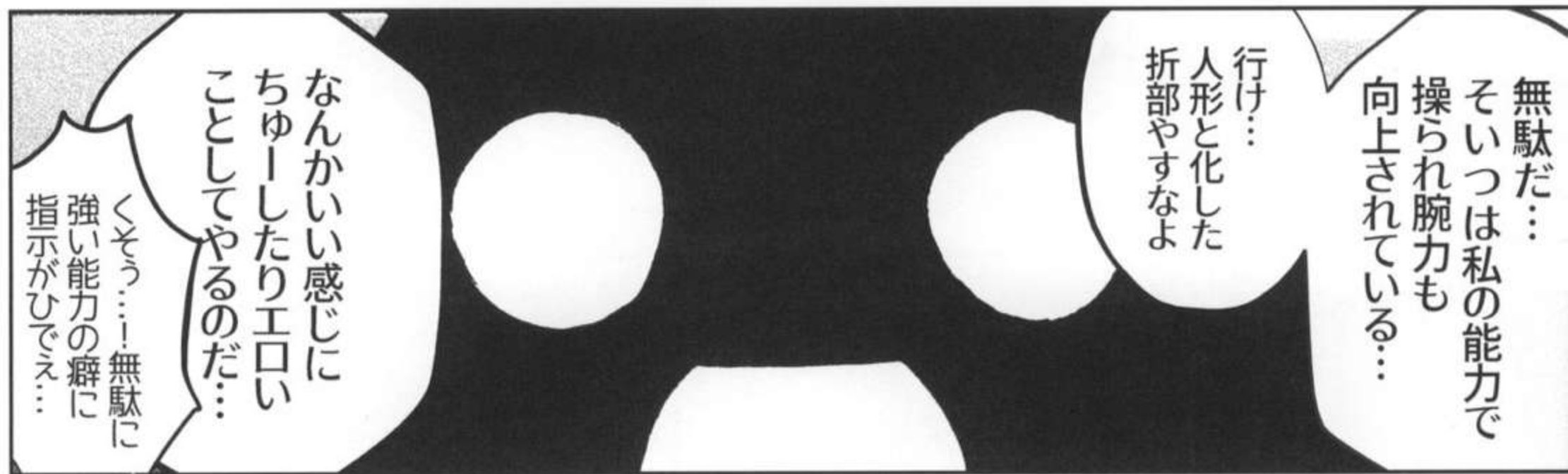
お…おい  
何してお前…

わかんない…  
なんか  
勝手に…

は…離れるよ…  
近い…近いから…



こう  
なれば…  
行けっ!  
折部やすな!



無駄だ…  
そいつは私の能力で  
操られ腕力も  
向上されている…

行け…  
人形と化した  
折部やすなよ

なんかいい感じに  
ちゅーしたりエロい  
ことしてやるのだ…

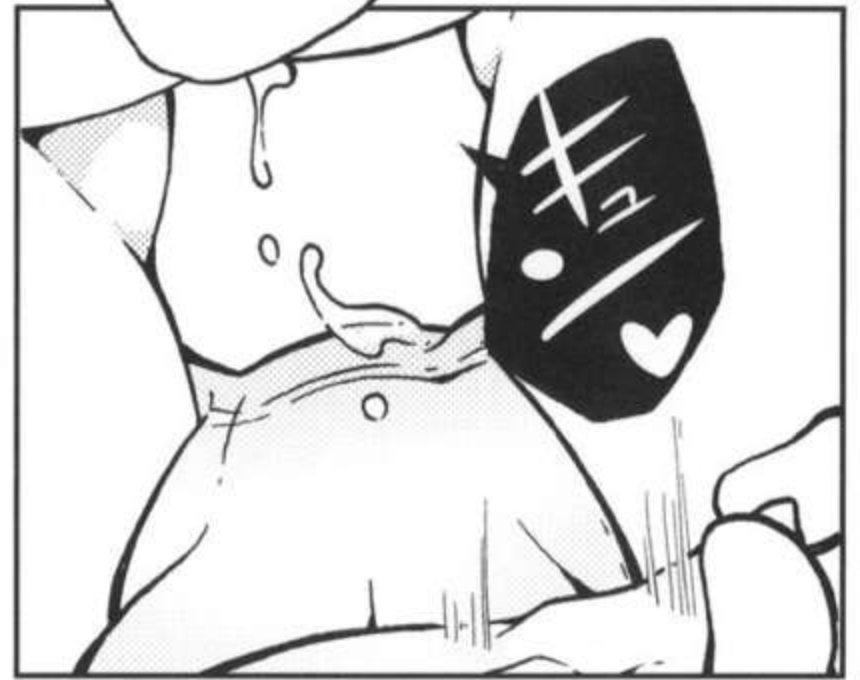
くそっ…！無駄に  
強い能力の癖に  
指示がひでえ…



ホント…  
やめ…

これいじよ…  
なあ…おい…











サークル「どんとこどん」の同人誌はとらのあなでも頒布中!!







鉄壁のスカートがなくなっても、やっぱり防御力は変わらない？



\$ 0

1  
おはよう  
ぱんつみえとる  
こんにちは



12

ぼっはい : Klu

\$ 10

1  
おはよう  
ぱんつみえとる  
こんにちは  
おつ  
なにこれエロ配信?  
ぱんつ  
可愛い話?  
こわそう  
可愛い  
ぱんつ



45

\$ 1010

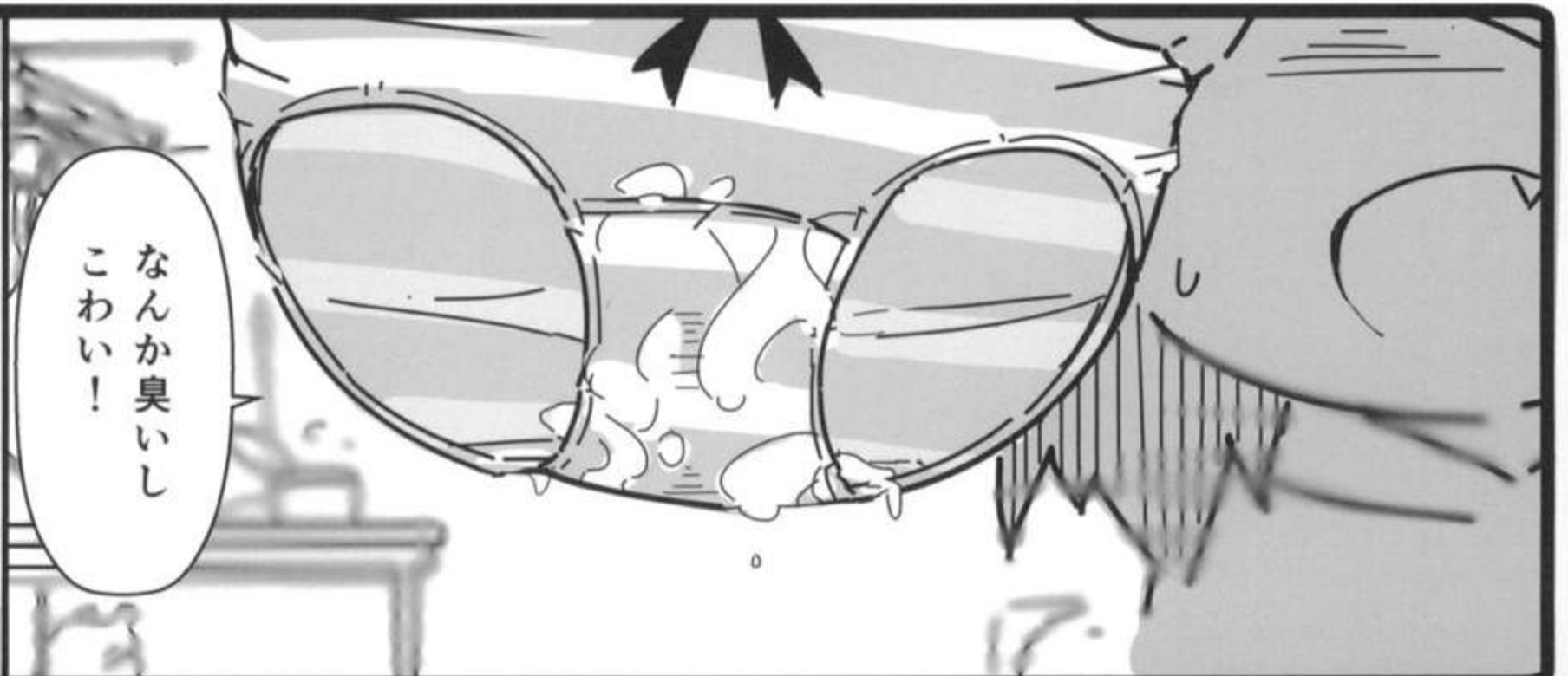
ぱんつ  
きたない  
くさそう  
くさそう  
あっ...  
縞  
表も見たい  
あっ(察し)  
くさそう  
あれなにこの配信  
きたない



102

\$ 7210

くさそう  
クロッチ  
まだ新しい  
今北くさそう  
ケフィア  
くさい(確信)  
裏地は?  
しゃーない  
洗剤でしょ  
きたない  
ほしい



931



\$ 9300

くさそう  
やらせくさい  
あやしい  
証拠をみせろ  
ぜったいにせもの  
稼ぐな  
元々きたないだけやろ  
自分の汚れでは  
やることがきたない  
ばんつもきたない  
通報します

🔑 1023



\$ 10700

やることがきたない  
ばんつもきたない  
通報します  
きたない  
没はそういうところある  
数字を稼ぐな  
おはようございます  
なんでわたしが?  
脱げ  
ばんつを見せろ  
あやしい

🔑 1145



\$ 14320

くさそう  
くさそう  
きたなそう  
みどりばんつ  
きれい  
わたしのばんつ!  
まだあやしい  
裏地みせろ  
くさそう  
クロッチみせて  
まだよく見えない

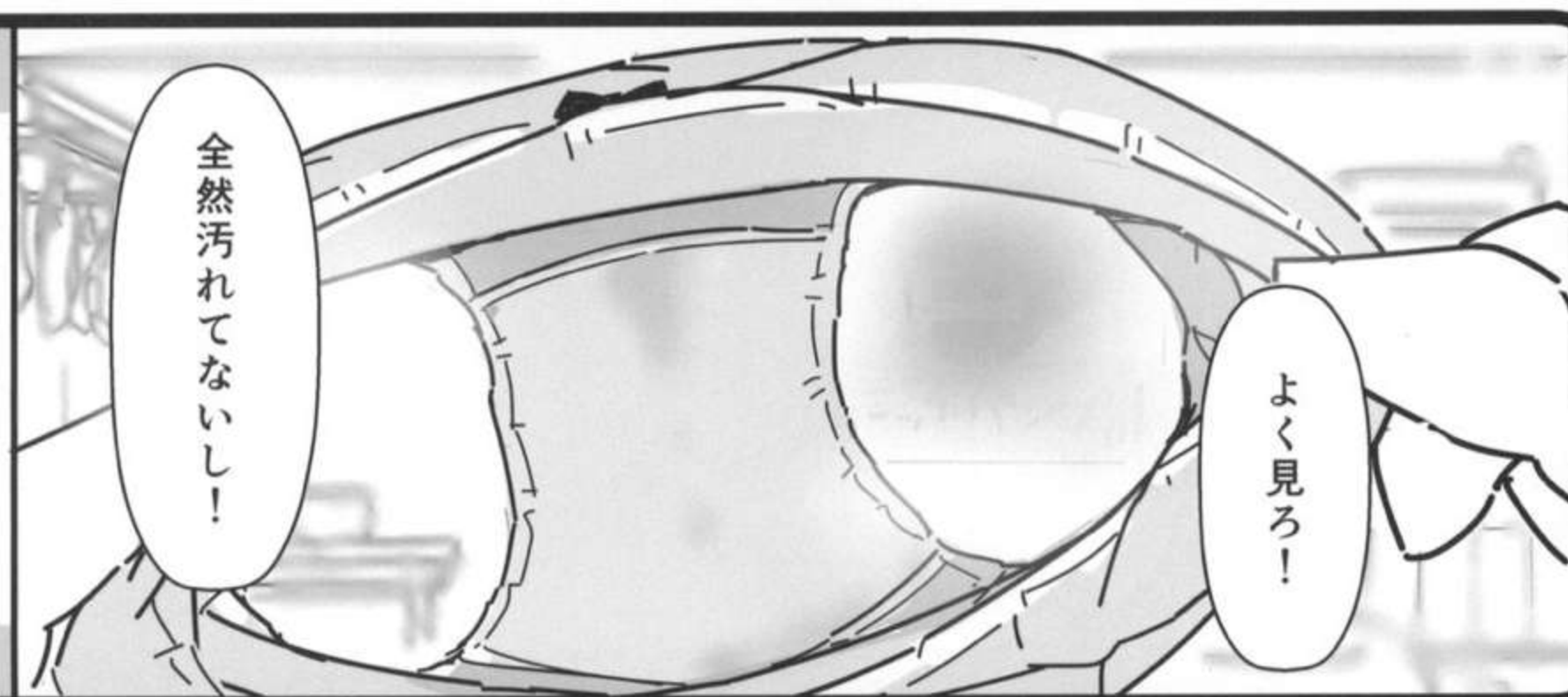
🔑 1919



\$ 31500

きたない  
くさい(確信)  
くさい  
くさそう  
高評価  
くさい(確信)  
染み  
染み?  
くさい  
汚れてる  
嗅がせろ

🔑 4507





\$ 40020

もっとぱんつみせろ  
ぱんつをみせろ  
くさそうだった  
これエロ配信?  
VR?  
くさそう  
ゲーム実況?  
VR  
たかそう  
これもわたしのVR!  
ぱんつをみせろ

🔑 5227



\$ 52200

ぱんつ  
みえない  
見えない(ぱんつしか)  
ぱんつ  
出てない  
みえない  
でてない  
ボタン押した?  
みえる(みえない)  
くさそう  
設定できてない

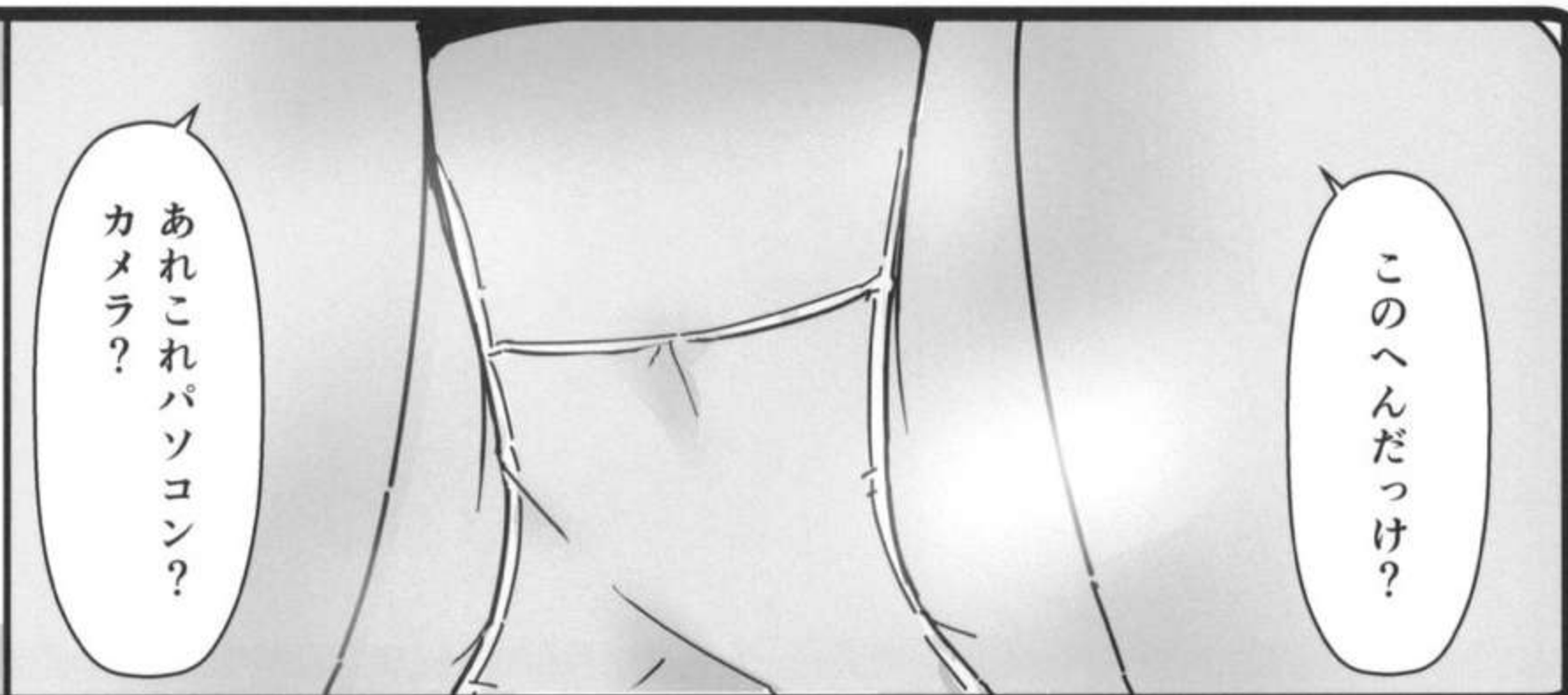
🔑 6831



\$ 197200

ぱんつ  
ぱんつ  
消されそう  
染み  
いいね!  
これはいけない  
くさい  
こいつは偽物だ!  
嗅がせろ  
いかん!  
ぱんつぱんつ

🔑 10907



\$ 0

配信は停止されました

チャンネルが削除されました

🔑 0





キルミードスケイパー



Illustration by 橋原

おおよそ高校生は

可愛い顔して

超

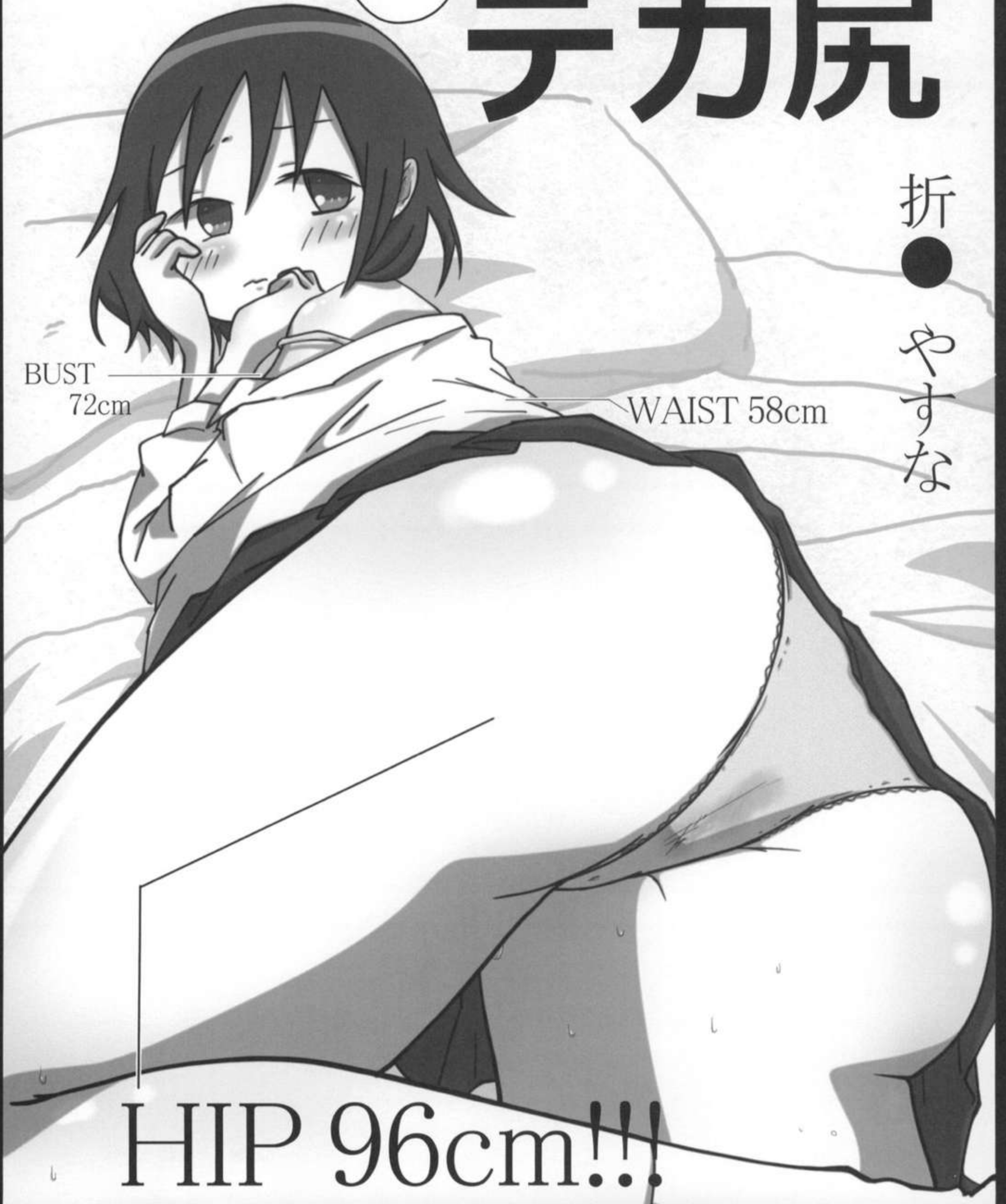
デカ尻

折●やすな

BUST  
72cm

WAIST 58cm

HIP 96cm!!!





素直になれない  
ミニま●こ  
たっぷり

480分

突然ハメるこじこじになった

殺し屋JKの生き様

—金髪美少女の屈辱—

出演：ソーニヤ

キルモードスケイパー

KDB

Illustration by 橋原



Yuge









第1回  
一七杯对抗

# 大卷早食い選手権

Part. 1









いやーよく見ると  
可愛いなって

いえいえ

でしょ？

いやまじまじ  
ほんとにかわいいって

…へえ♡

ポフッ

嬉しいな♡  
褒めてくれてありがと♡

もっと  
近くきて…♡

えへへ♡

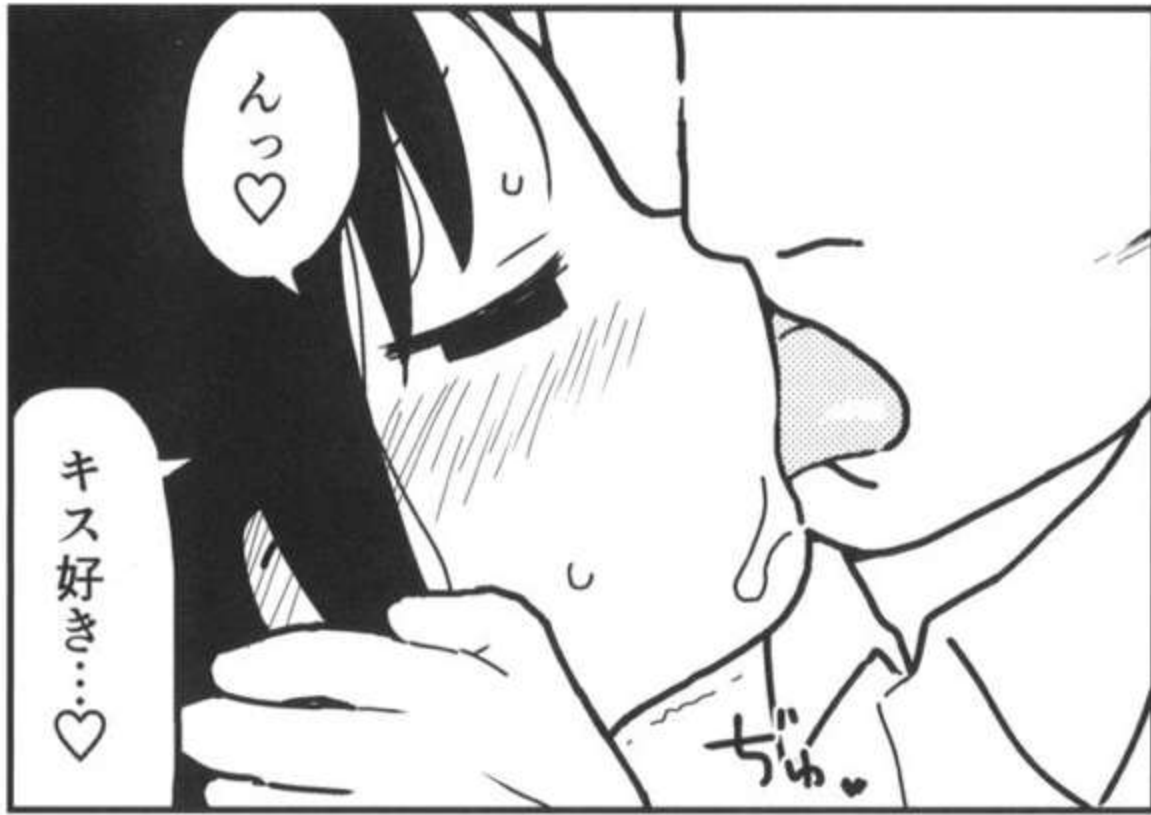
ぽんぽん

おっ♡

ソーニヤちゃんには  
内緒ね…♡

さあ









やべえ〜♡  
折部の生チチじゃん♡



恥ずかしい…かも♡

んんっ♡



折部って  
スケベなんだな♡

ええ〜♡

うんっ♡



乳首勃ってきた

ひゃっ♡

おっばい  
気持ちいいよう…♡









やあ♡このおちんぽ  
きもちいいよ♡



ひあ♡♡あ♡♡  
すご♡♡

ほんとに♡♡  
バカになるうう♡♡



あ♡♡これす♡♡  
やすなあ♡





びび  
びび

はぁ

びび  
びび

びび  
びび

びび  
びび





はあ…♡  
えっち好き♡

ちろっ  
はっ  
ちろっ

はっ



また  
しようね♡

いっっぱい♡  
ちようだい♡

Fin♡



**ちかんなんて  
滅びればいい**

**ちでん**





ソニー  
ニ  
カ  
キ  
ム  
の  
カ  
ン  
ク  
ン  
!

カ  
ン  
ク  
ン  
の  
カ  
キ  
ム  
!





私折部やすな  
十中八九  
社会人3年目

こっちは恋人のソーニヤちゃん

いいじゃんか…  
今日も

ダメだってもう  
今日は疲れて  
るんだからー！

今日も1日疲れちゃった…  
今週は忙しいから  
早めに寝ようかな

いまは私の  
ヒモをしています

高校卒業後  
ソーニヤちゃんは  
私が願った通り  
殺し屋をやめました

ふえっ!?

おかえり!!

# ヒモミイベイバー

Presented by Zoutni4





それでも私も弱いので  
すぐにいっしょにな  
っちゃうし



殺し屋を辞めたとたん  
ソーニヤちゃんはまるつきり  
性格も変わり優しくなりました



でも働かない  
ソーニヤちゃんは  
見て時々  
ム力つきます



やっぱり  
好きだなあ  
と思っちゃいます

時々見せる  
「ほんとうの  
ソーニヤちゃん  
の優しさを見て







あとギターも売った



……働き出すの？

ああそうだよ  
ずっとお前も  
望んでただろ？



前職とか隠すために  
色々手間取ったけど  
ようやくマトモな職  
手に入れそうだしさ

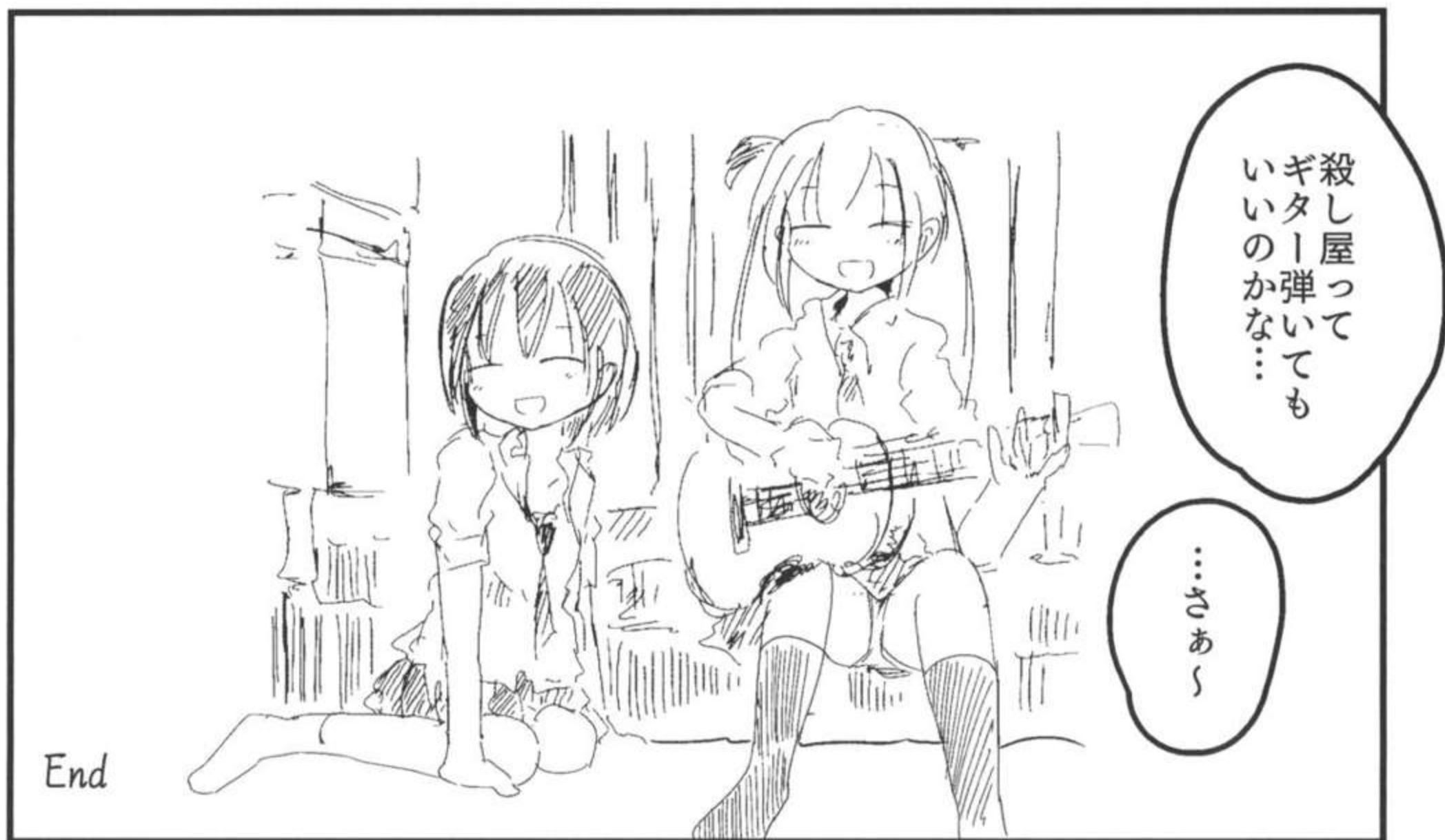


やっぱり今後の  
二人の生活とか  
考えだすと  
お金なきや  
やっていけないじゃん？

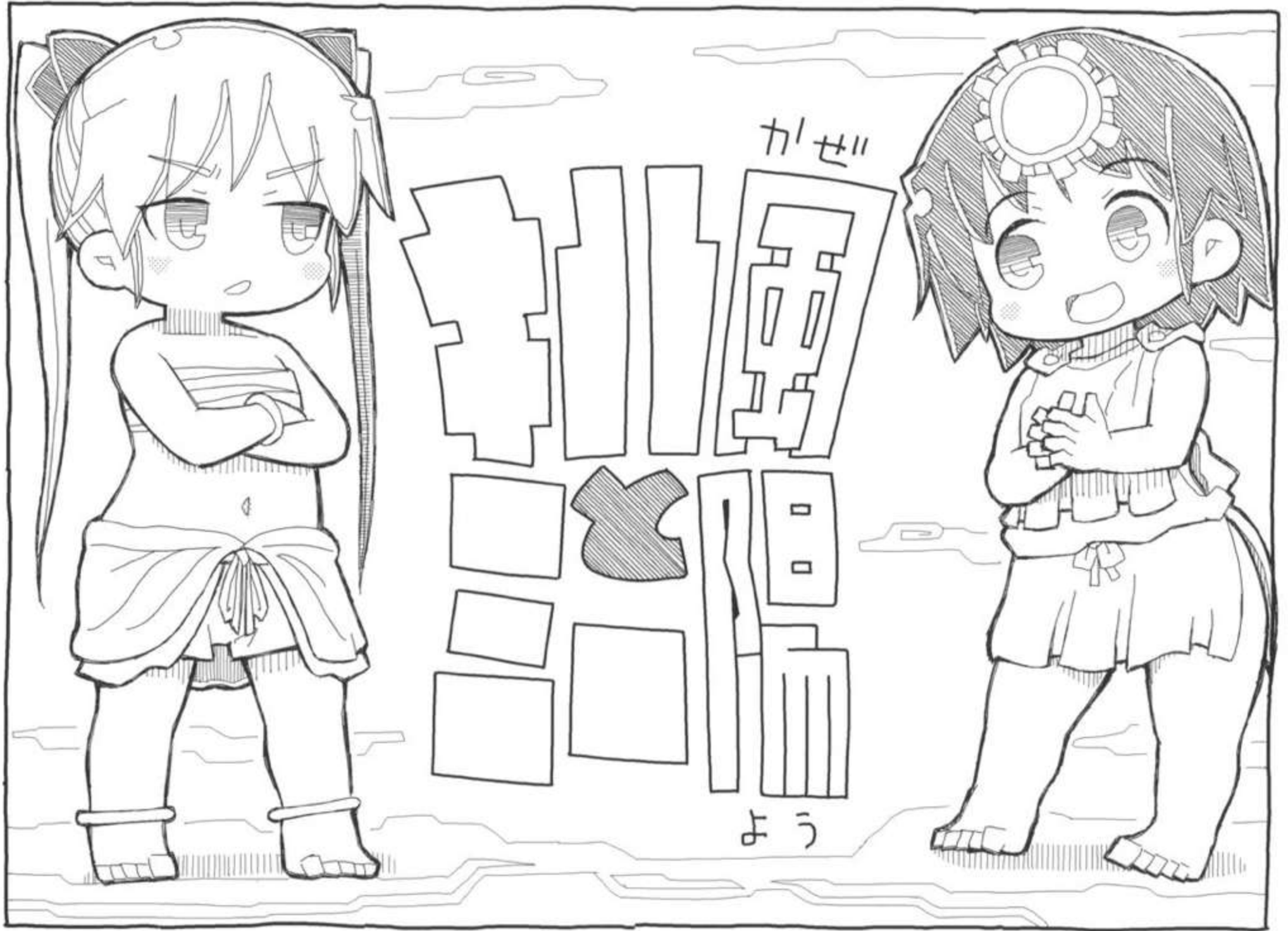


これでやすなにも  
楽しませてやれるからさ！  
二人で末永く  
暮らしていこう！

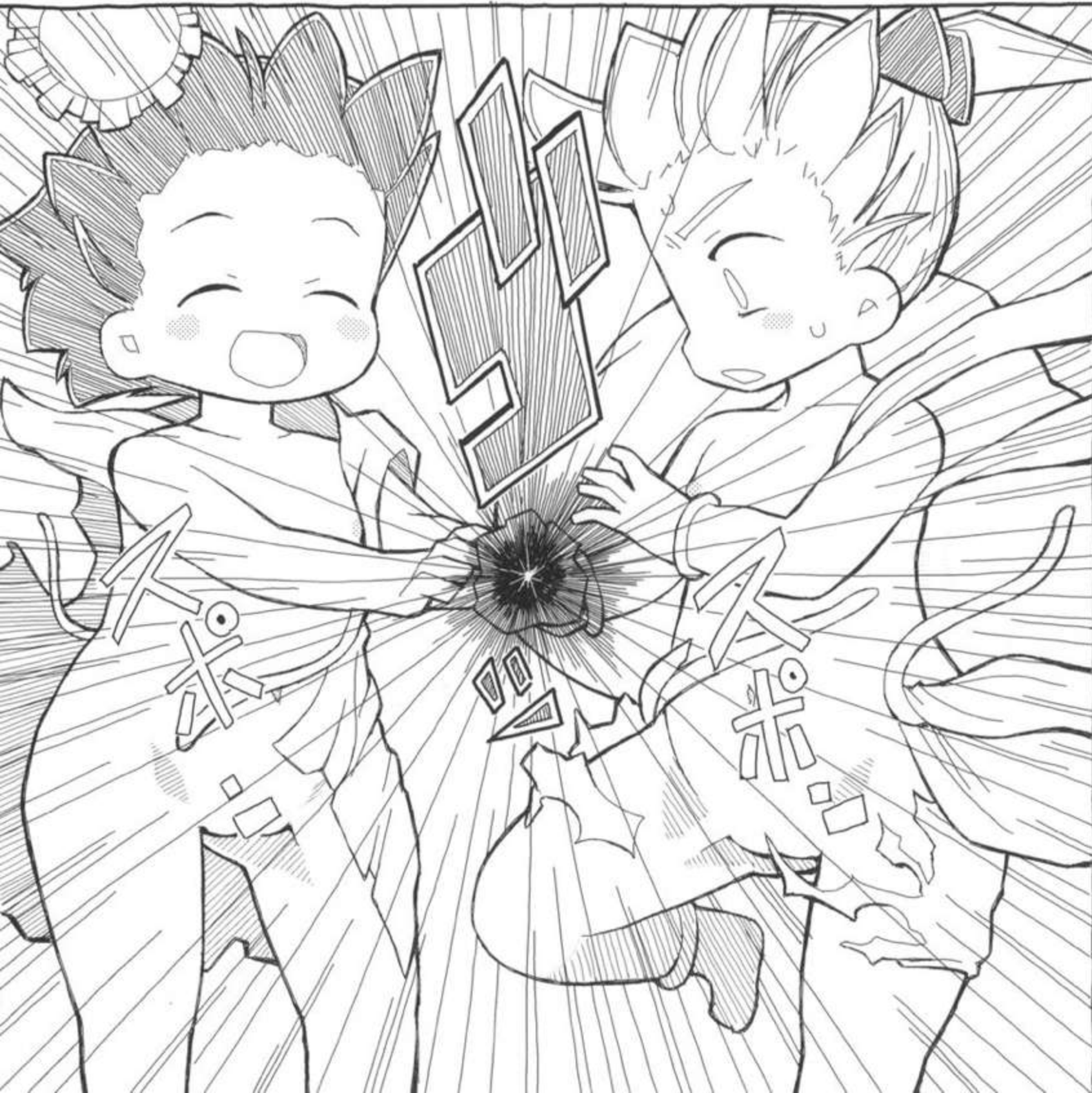
















「カビバ」の  
続きだッ  
オラァ!!



もー私たちを脱がして  
どーすんのさあ!!

この  
エロソニーヤ!!

カッチー  
ーニ☆



ナニ!? ナニ!?  
何すんの  
ソニーヤちゃん!?

えー!!?



ぞもぞもコレって  
「カビバ」なのオ!?

あギイイイイ...

どういう  
問題なの!?

何コレえ...めっちゃ耻すかしいよ  
ソニーヤちゃん!?



誰も見てないから  
気にすんな

※キル神様は大文字の「アイ」を括弧で囲んでいらっしゃいます。



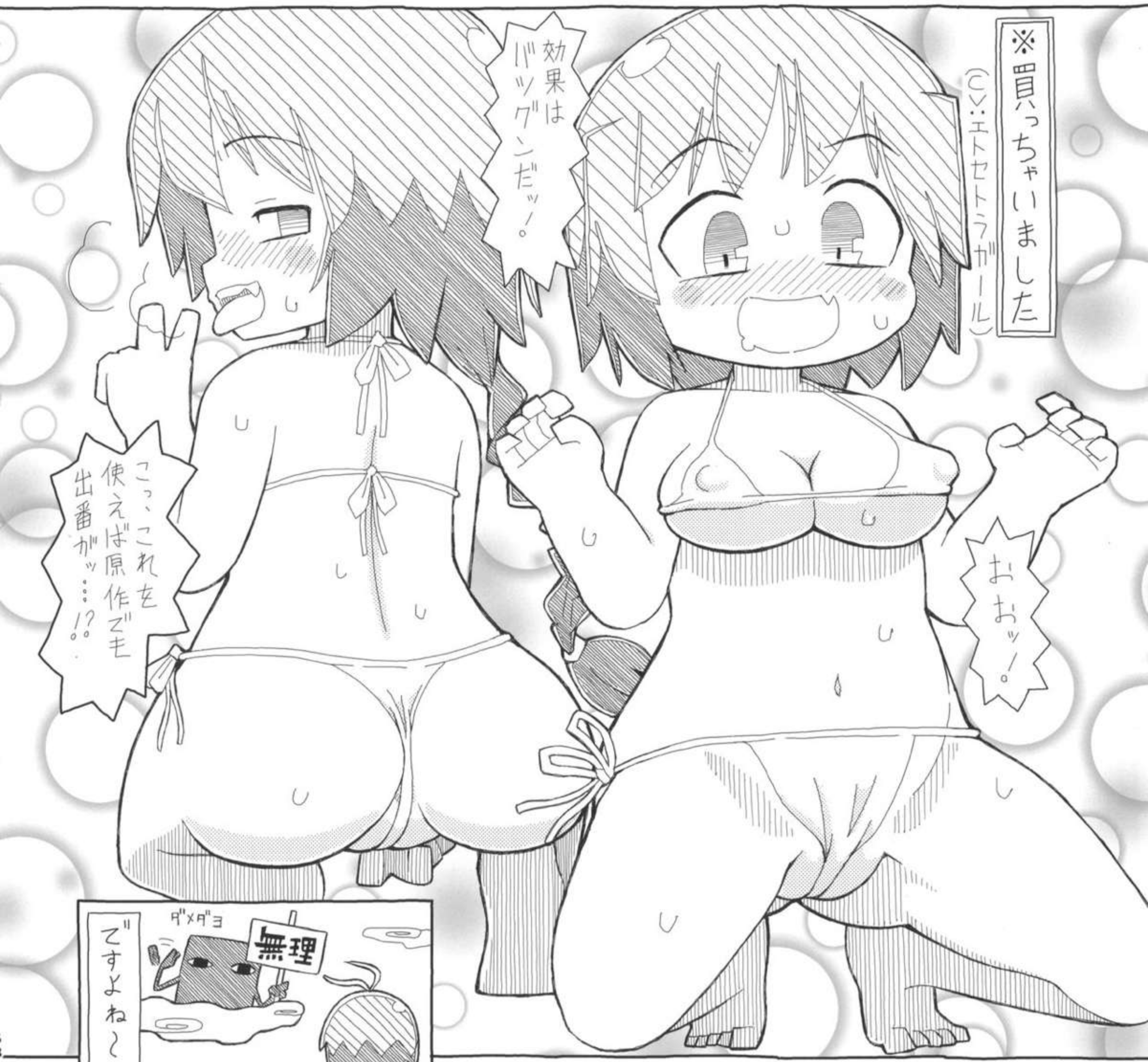
なんか今日は  
変な天気  
だなあ





ただいま  
着るだけで(薄い本の)  
出番が増える  
不思議な水着を  
特別販売中ですよー

いやいや  
さすがにそんな  
都合の良いモノが...  
今なら買えちゃうんです!  
チャンスですよ!?!  
コレが!  
...マジか



※買ったちゃいました  
(こゝ:エトセトラカール)

効果は  
バツグンだッ!

おおッ!

こっ、これを  
使えば原作でも  
出番かッ!?!



ですよね



あぎりさん

ハダシ



by やすとく

ふふ…  
今回の変装は完璧…  
こいつらには  
見破れんだろう…



完全に油断しているな…  
後はこの「いちもつ」で  
訓練と偽って  
快樂攻めにしてやる…

今日は刺客に襲われた時の  
特別な訓練をします

皆さん  
ついてきてくださいね



何あの  
ふくらみ

やっほ〜

女部

女部



まずは私から…

これをどーすれば？



ゆっくり舐めてください…  
敵がひるみますよ♡

ふふふふ



上手です…  
あっ…  
その調子…♡

あ…



舌先でなめる…  
んっ…  
こうですか…♡

うっ…



びびり!!

あっ…  
もうダメ…♡

びびり!!



んっ…  
うまふできてまふっ?

んっ.

あっ.

れるれる

ちゅちゅ









第1回  
一七十一对抗

大卷早食い選手権

Part.2



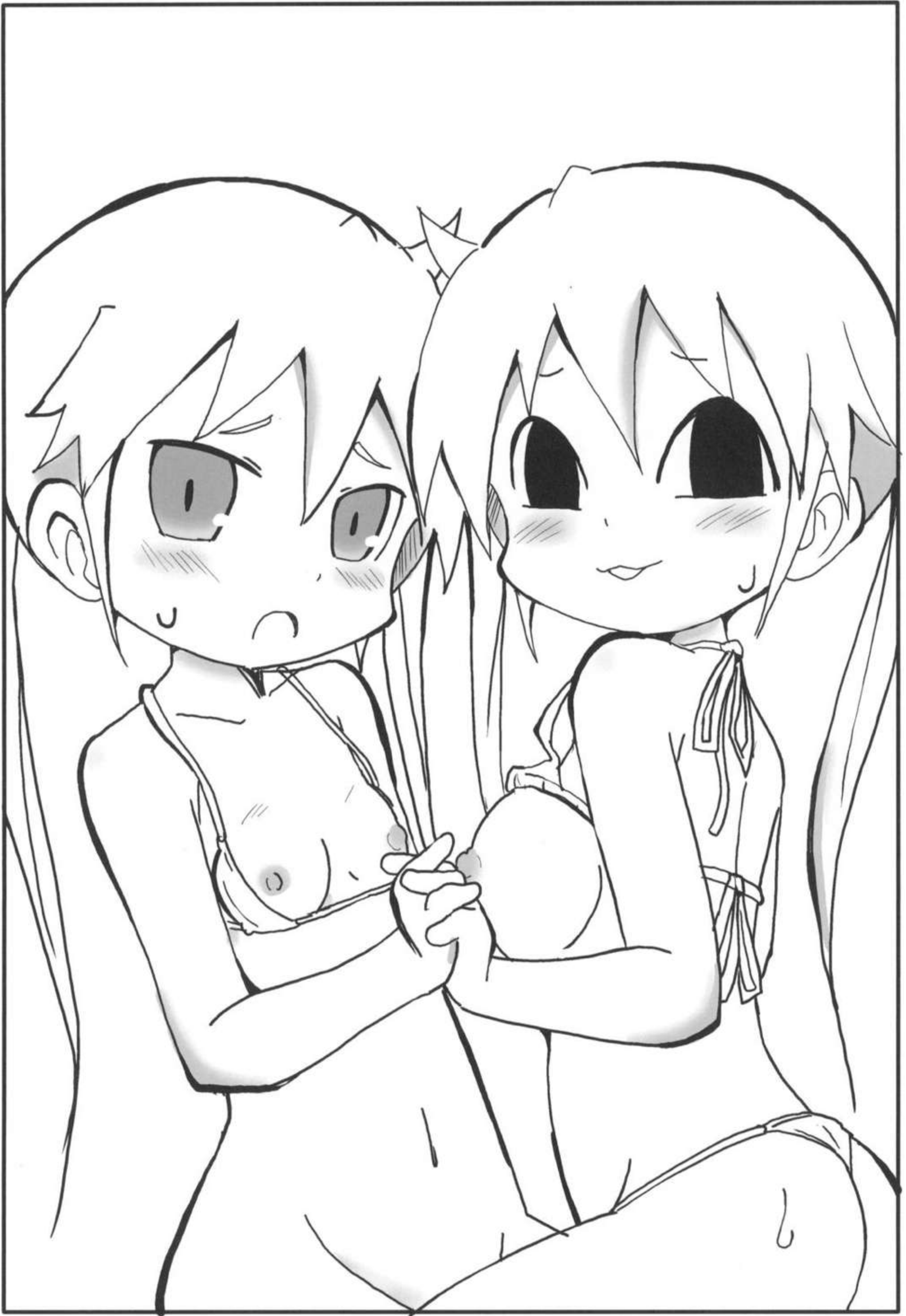




キニッ

じんせい



























第1回  
一七十一对抗

大卷早食い  
選手権

Part.3





# ミルキーベイブー大ピンチ

池田



吸血鬼。あるいはヴァンパイア。

ドラキュラ伯爵をはじめ、人の生き血を糧とすることで有名なモンスター的一种である。そのライフスタイルは枚挙に暇がない。社会の中で生活する者、人類未踏の地でひっそり生活するもの。靴一つで世界中を旅する者や、吸血鬼数人で寄り集まってサーカス団を結成した者などもあるという。彼ら、あるいは彼女らは人間社会の隙間で、時に恐れられ、時に崇められ、時に迫害されたりしながらも、ごくごく普通にその血を古より繋いできたのであった。

さて、そんな吸血鬼たち。大多数は無害で慎ましく生きているのだが、もちろん過激派と呼ばれる集団もしっかり存在する。

普段は身を隠しつつ、人間を襲うこと意識的に選択した者たちである。人の血を残らず吸い尽くし、その魂までもを己の血肉とするという古来の風習を重んじる派閥だ。その発足は十九世紀ごろと考えられている。突如として徒党を組んだ彼らの暗躍によってヨーロッパでは大量の死者が出ることとなり、人々は彼らを「黒死病の再来」と呼び大いに恐れたという。

しかし、人間も指をくわえてそれを見過ごすほど甘くはない。事態を重く見た当時のカトリック教会は、悪魔払いを専門とする聖職者をヴァチカンに集め、討伐部隊を組織した。それが今日におけるヴァンパイアハンターの祖であると伝えられている。

人間を食らう者、そして食らう者を狩る者の戦いは、何度かの歩み寄りとその交渉の決裂を経ながら、現代においても終わることな



く続いていた。誰にも知られることなく、どこにも記録されることなく……。



月明かりの差し込む空き教室。一人の女子生徒と、ソーニャ——またの名をキルクユラと言った——が相對している。

「いつ、いや……来ないで……」

怯え後ずさる生徒に、ソーニャはゆつくりと歩み寄っていく。すぐに少女は壁際に追い詰められ、その眼前にソーニャの真っ白な顔が迫る。

「大丈夫、すぐに済むから……」

鼻が触れ合うほどの距離で、ソーニャがそつと息を吐いた。吐息をまともに食らった少女はその場で昏倒する。その体を抱きとめながら、ソーニャは素早い動きで少女の襟元を緩め、首筋を露出させた。

数カ月ぶりの「生き血」だ——。

舌舐めずりをしながら、ソーニャが大きく口を開いた。真っ赤な口の中で白い牙がキラリと妖しく光る。

柔らかな肌を鋭い牙が突き破ろうとした、その時だった。

「ストップ！ ストップ！」

月夜の静けさを吹き飛ばすような大声とともに、扉が開け放たれる。それと同時に生徒は意識を取り戻し、ソーニャの腕を振り払った。

「はやくはやく！」

女生徒はわけもわからないまま、ソーニャから離れ、手招きをしている声の主にすがり

つく。

「大丈夫？ なにかされた？」

「いえ、その、なにがなんだか……」

「うん、首に傷はついてない……よかった」

「あの、あなたは……」

「とにかくここから逃げて！」

「は、はい！」

少女が廊下を走り去っていく。その足音が消えると同時に、ソーニャが叫んだ。

「やすなあつ！ またか！ またお前か！」

「こっちのセリフだよ！ もう人襲わないでって言っただじゃん！」

「腹が減るんだよ……久しぶりにご馳走にありつけると思ったらこれだ！ ああ、くそっ！」

苛立ちながら地団駄を踏むソーニャ。やすなはそんな彼女にまっすぐ歩み寄っていく。

「協定で決まった食べ方しないからでしょ！ そしたら文句言わないのに……」

「人間風情がほぐくなよこの野郎……あんなみみっちい真似するくらいなら死んだほうがマシだ！」

ソーニャの眼が、やすなを射殺さんばかりに睨みつける。その瞳はいつものサファイア・ブルーから一転して、血のような赤に染まっていた。それと同時に制服が形を変えて、赤と黒を基調にした吸血鬼装束へと変化していく。

「ううう……さつきから勝手なことばっかり言うて！ もう本っ当に怒った！」

対するやすなは、ポケットからステッキを取り出した。彼女はそれを天高く掲げ、声を張り上げる。

「キャラクター！ マックス！ フォワード！」

ミラクルうー！」

空き教室が光で満たされた。

光の中で、一瞬全裸になった彼女の体に、次々と衣装が張り付いていく。

「参上！ ミルキーベイビー！」

そして光が消え、ポーズを決めたやすなが現れた。ちなみに、ポーズについては特に意味はない。

折部やすなはヴァンパイアハンターであった。変身に使ったステッキは、あがりから衣装込みで三千元で買ったものである。

「ほお……お前いっちょ前に楯突くつもりか……」

「悪い吸血鬼め、やっつけてやるうー！」

「今日という今日は本っ当に許さん……覚悟しろ折部やすなア！」

そして二人は、ほぼ同時に地面を蹴った。お互いの距離が急速に縮まっていく。



それから、数分後。

「ひうっ♡ だめえっ♡ ソーニャちゃ、あううっ♡」

空き教室に、やすなの嬌声が響き渡っていた。

「なんだ、勇ましい割には大したことなかったな」

やすなの首筋を甘噛みしながら、ソーニャが言う。

あれから何が起こったのか。

お互いに飛びかかったやすなとソーニャだ



ったが、勝負はほぼ一瞬でついた。

結果から言うとソーニヤの圧勝である。

すれ違いざまに、催眠作用のある吐息をやすなの顔に吐きかけ、背後に周りがつちりと羽交い締め。そしてダメ押しとばかりに、ソーニヤは秘孔を突いた。瞬間、やすなの全身から力が抜け、そして体の内側は爆発でも起こしたかのような勢いで熱くなっていった。発情状態である。

そこからはもう一方的だった。ソーニヤは焦らすようにやすなの全身を撫で回しながら、ニブレスを剥き、乳首を弄くり倒し、首筋を舐め回し、とどめに言葉でやすなを激しく責め立てる。

「んっ♡ はうんっ♡ だめっ♡ だめええっ♡」

「声出すな、人来るだろ」

「だってえっ♡ ちくびっ♡ ちくびいじめるのやだあっ♡」

固くなったやすなの乳首を、ソーニヤの指は絶妙な力加減でいじめ転がす。びん、びんと鋭い爪が桜色の乳頭をはじく度に、やすなは甘い声をあげて身をよじらせた。

「は、あうんっ♡ ああっ♡ あんっ♡」

「まったく、拍子抜けもいとこだ。ここまであっさり勝負がつくとは」

ソーニヤがうんざりしたように言う。

「ま、まだっ♡ 負けじゃないもんっ♡」

そして、やすながそれに食ってかかる。

「はあ？」

ソーニヤの指がやすなの股に滑り込み、彼女の割れ目を激しく擦りあげる。クロッチ越

してあるにも関わらず、秘部はくちゆくちゆと湿った音を立てた。

「ひゃああんっ♡」

「どの口が……乳首だけでこんなに濡らしといて」

「やあっ♡ そんなにこすつちや、ああっ♡」

「お前の負けだ、バカめ」

ソーニヤが指を動かすたびにやすなの陰裂からは蜜が溢れ出て、内腿を滑り落ちていく。

「すごいな、どんどん溢れてくる」

「はっ♡ ああんっ♡ あんっ♡」

乳首と割れ目を同時に責められて、やすなの理性はみるみるうちに溶かされていく。そしてソーニヤも、自分の体の内奥が静かに熱くなっていくのを感じていた。

二人から染み出した熱気がだんだんと教室の中を満たしていった。それは二人の頭に静かに作用した。ソーニヤの責めもやすなの甘い声も、徐々にその激しさを増していく。

「ひううっ♡ やめてっ♡ んうう、ううっ♡」

そして、やすなの体に最初の絶頂が訪れようとしていた。全身がぎゅうつとこわばって、これからやってくるであろう快樂の波を乗り越えようと身構える。しかしその緊張の糸が切れようとするまさにその瞬間、ソーニヤが唐突に手を止めた。

「え、あ……」

さっ、とやすなの体から熱が引いていく。ピンと張っていたはずの緊張が緩んでしまったために、彼女は心身ともに戸惑いを隠せない。

「ソーニヤ、ちゃん……？」

怯えた目でやすなは振り返る。その視線の

先にあつたソーニヤの口元には、獲物をいたぶって楽しむ肉食獣のような、そんな獷猛な笑みが浮かんでいた。

ソーニヤの指がまたゆつくりと動き出す。爪で乳輪のあたりを焦らすようになぞつていく。やすなが直接感じることはない、しかし秘部が思わず疼いてしまうくらいの絶妙な力加減で。

「なんだよ、お前が「やめて」って言うからやめたんだが」

「そ、それは」

「嘘だったのか？」

「う、う……ひやっ！」

「おい、どうなんだよ」

ソーニヤが囁きながら、やすなの耳を口に含む。未知の感覚がやすなの理性と本能に襲いかかって、彼女の頭にまだ残っている羞恥や躊躇いを食い荒らしていく。

「あむ、はむ……このまま一晩中生殺していいの？ それも面白そうだけどな」

「ひや、あっ、あうっ♡」

「辛いだろ？ 苦しいだろ？ 楽になっちゃまえ」

「わ、わたし、はあっ♡」

私は――

そこまで考えて、やすなはその先の言葉を紡げない自分があることに気がついた。

私は、どうしたらいい？ 彼女は唐突に生まれた、心の中の空白を埋める言葉を求める。

「イキたいんだろ？」

そしてその空白に、ソーニヤの言葉はびっ



たりとはまり込んだらしい。

「イキたいなら、自分でイけよ。手伝ってやるから」

「……………うん」

やすなの手が、ごく自然な動きで自らの秘部にあてがわれ、人差し指と中指が割れ目の中に沈み込んでいく。

「んっ、う……………♡」

クロッチの中で卑猥なピストン運動が始まった。

突き上げる二本の指。ぶちゅ、ぶちゅ、といやらしい音を立てながら、膣中を前後する。

「はっ♡ くう……………♡ ああっ♡」

やすなの指の動きが加速していく。なめらかな膣の柔肉と指が擦れあう度に、切ない電流が彼女の体を駆けめぐる。

そんなやすなの乳首を、ソーニャは再び激しくこねくり回す。果実の種のように固くなった胸の突起を、指や手のひらで弄んだ。

「あっ♡ はう♡ い、ああああっ♡」

そして体を弓なりに仰け反らせながら、やすなは絶頂した。

「はっ♡ はっ♡ はあ……………♡」

全身から力が抜けていく。倒れそうになる体を、ソーニャの腕だけが辛うじて支えていた。

荒かった呼吸がだんだんと落ち着いてくる。絶頂の余韻も反響を繰り返しながら、だんだんと穏やかになっていった。熱に浮かされた思考が、本来の繋がりを取り戻していく。

「……………ん？」

だが、クリアになりかけた思考が新たな違

和感を捉えた。ちょうど腰のあたりに、なにか固いものの存在を感じとる。

嫌な予感がする。やすなの背筋を、冷たいものが滑り落ちていく。

「ソーニャちゃん……………？」

「……………なんだ」

「あの、なんか……………当たってる、けど……………」

返事の代わりに、ソーニャはぐいと腰をやすなに押しつける。

固いものの感触がよりはつきりとしていく。それは棒状で、びくびくとリズムカルに脈打っている。無機質な固さとは違い、肉としての弾力も伴っていた。

まさか。

「そ、ソーニャちゃん、それ……………って」

やすなは思わず振り返る。そして言葉を失った。

そこにははてらと鈍く光を反射させながら、大きく怒張している赤黒いペニスがあった。

なんでそんなものが、そんなところに。そう言いたげなやすなの視線に気がついたのか、ソーニャは事も無げに言う。

「ああ、吸血鬼はな……………こういうのも自由自在なんだ、知らなかったのか？」

ソーニャが腰を前に突き出す。ぶるん、と肉茎が重そうに揺れる。

「見るのは初めてか……………まあそうだろうな。ほら」

よく見ろよ、とでも言いたげにソーニャはさらに腰を揺らす。

揺れる度にその先端が、やすなの腰のあたりを掠めていった。透明なカウパーが、やす

なとペニスの間で糸を引いて月明かりにきらめく。

「ああ、もう……………もう、限界だ……………」

陰茎をやすなの股間に擦りつけながら、ソーニャが悩ましがちな声で言う。それはまるで降り積もった情動を吐き出す場所を求めよう。

「お前が、悪いんだから……………お前が邪魔をするから……………」

「ソーニャちゃん——」

「責任、取れよなっ」

だめ、とやすなが言うより先に、ソーニャのペニスがやすなの膣にねじ込まれた。

「……………っ！！」

あまりの衝撃に、一瞬やすなの息が止まった。掠れた声と唾液が口の端からこぼれ落ちて、床の愛液と混ざり合う。

「く、うっ……………♡ さすがにキツいな……………♡」

「か、はあ……………♡」

生まれて初めて男根を受け入れたやすなの蜜穴は、異物を押し出そうと必死になっているのか、それともソーニャを歓迎しているのか、ひくひくと収縮を繰り返した。

「あっ……………♡ ソーニャちゃんっ♡ 動いちゃ、あああっ♡」

腰が前後し始める。最初は慣らすように、ゆっくりと。

「はあ……………っ、すごいな……………♡ なんだこれ……………♡」

そして徐々に、激しく、強く。肌と肌のぶつかり合う音が教室の中で響きわたる。

「や、やだっ♡ あんっ♡ ソーニャちゃんっ♡ やめてえっ♡」



「なにが「やめて」だ、こんなにきゆうきゆう締め付けやがってっ♡」

やすなの膺は、ねっとりとしりとりとソーニヤのペニスに絡みついて、彼女を存分に悦ばせた。

ピストンがさらに激しくなる。ペニスはますます固く、熱く、大きくなっていて、精を吐き出そうとびくんびくんと脈動する。

「くっ、ううっ♡ 射精すぞおっ♡」

「はひっ♡ ひいっ♡ やっ♡ いやああっ♡ こわれちゃうっ♡ おまんこっ♡ こわれちゃ、あううっ♡」

「うるせえっ♡ おとなしくいけっ♡ イっちまえっ♡」

ソーニヤはトドメの一撃とばかりにやすなの奥の奥までペニスをねじ込んだ。そして二人は同時に、絶頂する。

「きゃああああああんっ♡♡♡♡」

「ううううっ！」

やすなの子宮がソーニヤの精液で満たされていく。その射精の勢いはまるで壊れた消火栓のようで、とどまるところを知らない。やすなの下腹部は内側からの圧力によって、ぼっこりと膨らんでいった。

「はあっ♡ はーっ♡ はーっ♡」

「ふうう……♡」

精液を出し終わったソーニヤの陰茎が、ずりりと外に滑り出る。それと一緒に溢れた精液がやすなの体を伝い、床に滴り落ちた。

「そ、ソーニヤ、ちゃ……」

これで、満足した？

やすなはほっとした気持ちで、ため息をつく。

だがその安堵は、次の瞬間粉々に打ち砕かれた。

ずん、と鈍い衝撃が、再び襲いかかる。そして先ほどとは違う刺激がやすなを貫いた。

「ひぐううううっ♡」

「まだまだあっ♡」

「そっ♡ ソーニヤちゃっ♡ そこはあっ♡」

ソーニヤが次に狙いを定めたのは……

「おしりっ♡ はううっ♡ おしりだからあっ♡」

無防備なもう一つの穴を、ソーニヤのペニスは容赦なく抉る。

「だめえっ♡ おしりっ♡ おかしくなるうううっ♡♡」

「黙れっ♡ このっ♡ このおっ♡」

ソーニヤの性欲は完全に暴走していた。彼女の頭は、もはや目の前のやすなを貪ることしか考えていない。

「そんな甘えた声で鳴きやがってっ♡ ムカつくんだよっ♡」

ソーニヤのピストンが、ますます強くなっていく。彼女の腹の中にわたかまっていたあれやこれやを、全てぶつけるかの勢いで、やすなの中に野太い雌茎を打ち込んでいく。

「あぐうっ♡ そーにや、ちゃあっ♡ やめてええっ♡」

「やめるもんかっ♡ 穴という穴全部犯してやるっ♡」

ソーニヤのペニスが強く脈動する。再び精を吐き出そうと、苦しうにのたうち回る。

「射精すぞっ、もう一回だっ♡」

「だめえっ♡ しんじやうっ♡ しんじやううううっ♡」

「そうか、死ねっ♡ 死んじまえっ♡ イキ狂って、死ねえっ♡」

そしてソーニヤは絶頂した。

「ひあああっ♡ そーにや、ちゃ、ああああくっ♡♡♡♡」

「ぐ、ううううううっ♡♡♡♡」

まるでゼリーののように濃い精液がやすなの腸内にたっぷりと注ぎ込まれていく。

射精が終わりきらないうちに、二人は糸の切れた人形のように、折り重なるようにして地面に倒れ込む。

ぶるりと身震いをしながら外へ出たペニスがそこら中に精液を吐き出して、床の木目を汚していった。

「あ……♡ ひう……♡」

「ふうっ♡ ふうっ♡ はっ、ああっ♡」

二人の体力はもう限界に達していた。達しているはずだった。

しかし。

「そ、ソーニヤちゃん……まだ……？」

「そう、みたいだな……」

ソーニヤのペニスは先ほどよりは萎んでいたが、まだ天を衝くが如く勃起していて、収まる様子がまるで見られない。

「……いいよ」

「は……？」

「もう一回……やろ？」

両手で尻肉を広げたやすなが、ソーニヤを誘う。その瞳には、悦びに目覚めた雌の色が浮かんでいた。

「お前……覚悟しろよ」

「……うん♡」





南中を過ぎた月の明かりが、空き教室に差し込んでいく。

その明かりが照らし出すのは、もはや獣と呼んで差し支えない二人の姿だった。

「うぐっ♡ うぐああうっ♡ ソーニヤちゃんっ♡ ソーニヤちゃんっ♡」

「あ、はああっ♡ やすなっ♡ やすなああっ♡」  
腹這いのやすなに覆い被さるようにして、

ソーニヤがやすなの尻穴を犯していた。ぶぼ、ぶぼ、と精液と空気の混ざり合う音が響く。

三回目とは思えないほどに、そのまぐわいは熱く激しい。

「そーにやちゃ♡ そーにやちゃんっ♡ もつとおっ♡」

やすなは体も心もぐちゃぐちゃになりながら、それでもなおソーニヤを求めて腰をくねらせる。

「おしりっ♡ もつといじめてえっ♡」

「まだ欲しがるかっ♡ このマゾっ♡ マゾ猫があっ♡」

「ああっ♡ あううううっ♡」  
「くっうううっ♡ イくっ♡ イくぞっ♡」

そして、三度ソーニヤは射精した。もう体に収まりきれない精液が穴から吹き出して、

二人の服を、肌を、白く汚していく。  
「ひっ♡ ああっ♡ あああああ〜っ♡♡♡♡♡」

「うう、お、うあああ〜っ♡♡♡♡♡」  
遠吠えのような喘ぎを発して、二人は果てた。

そして今度こそ静寂が訪れる。精液のすえた臭いと、じつとりとした汗の臭いが混ざった

空気の底で、二人は快樂の余韻に浸る。

「は……♡ はひ……♡」

「う、おう……♡」

か細い吐息の音。そのまま続くかと思われた静けさが唐突に打ち破られる。ソーニヤの腹の虫が鳴いた音だった。

「はあ……は、あっ……おなか、すいたの？」

「……お前のせいで、食いつばぐれたからな」

「なにが？」

「私の……飲んで……」

やすなが後ろ髪をかきあげる。それは彼女がソーニヤの「食料」になることを受け入れたという合図であった。

ソーニヤは戸惑う。  
こいつの血なんて、まっぴらごめんだ。飲んだら私までバカになりそうで。

しかし頭ではそう思っても体は欲望に正直だ。無意識のうちにソーニヤは舌なめずりをしている。

皮膚の下にある血管。そこに流れるやすなの赤い血潮。

こいつは、いったいどんな味がするのだろうか。

考えれば考えるほど想像がかき立てられて、ますます空腹が加速していく。

「……いいの？」

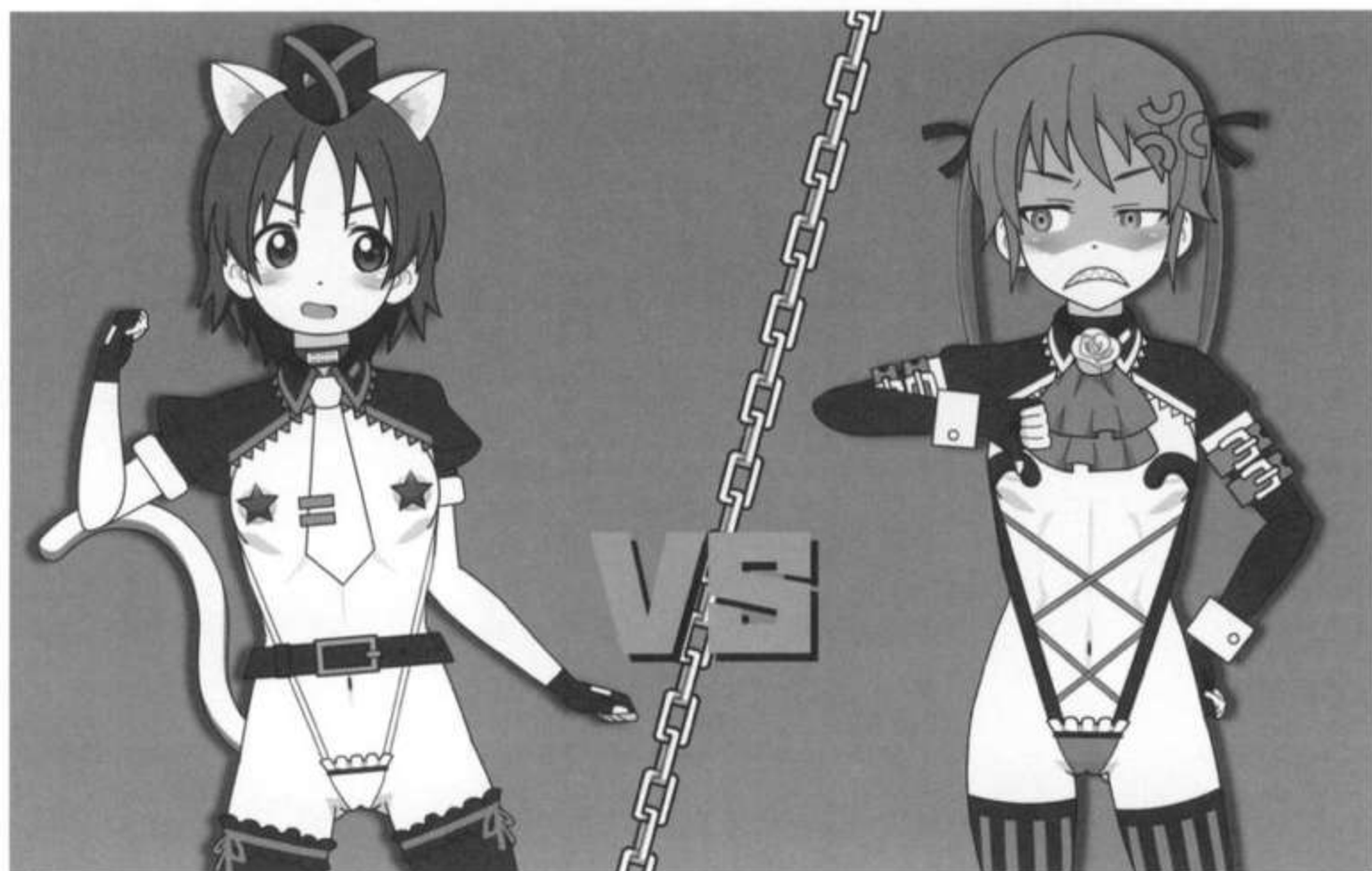
首筋をべろりと舐めながら、ソーニヤは訪ねる。

「全部はダメだけどね」

やすなは小さく頷いてから、思い出したように条件を出した。

「だから、もう普通の人襲わないって約束してよ」

「ちっ、抜かないな……」



わかったよ、と呟いて、ソーニヤはやすなの首に優しく牙を突き立てる。「ああ」と小さい悲鳴が、鈴が転がるように床に落ちて、消えていった。

おわり。



はあ〜っ！ソニーちゃんとおまんとセックスしたいよお〜っ

くちゅくちゅ

セックス  
セックス  
セックス  
セックス  
セックス  
ソニーちゃんとおまんと

おっお前…  
授業にも出ないで  
屋上で何を…

ドン引き…

あつ！

ソニーちゃん！

セックスしまつ！  
ソニーちゃん！  
〜っ〜っ〜っ！

ガッ！

うおお！  
やめろバカ！





ソクニヤス  
見つかりましたか？

こゝろあさる

お取り込み中  
すみません♡

オオラッ！  
お望みどおりの  
セツクスだ！

やめてえ！  
んほお！

愛の……  
愛のあるセツクス  
プリーズ！

孕みやがれ！  
クソが！

ハニッ

アッ

パンッ

ジュン  
ハニッ

ガク

ハニッ

フニッ

ひゃー



私も混ざりたかった  
ですねー

んっ♡

あっ♡

くっ♡

ぐっ♡

くっ♡

くっ♡





# オマケ♡

一人じゃ満足出来ない  
ので手伝って下さる♡

忍法  
ふたのりの術

ほつほつ  
編みに  
はれは  
へれ  
ひる  
やふ  
んれ

歯は当てないで  
くださいね♡

ふあ…ふあ





にせキルミ

一休





「催眠なんて効くわけないだろ」  
ネタを考えてたら  
十巻に既に催眠術回があった



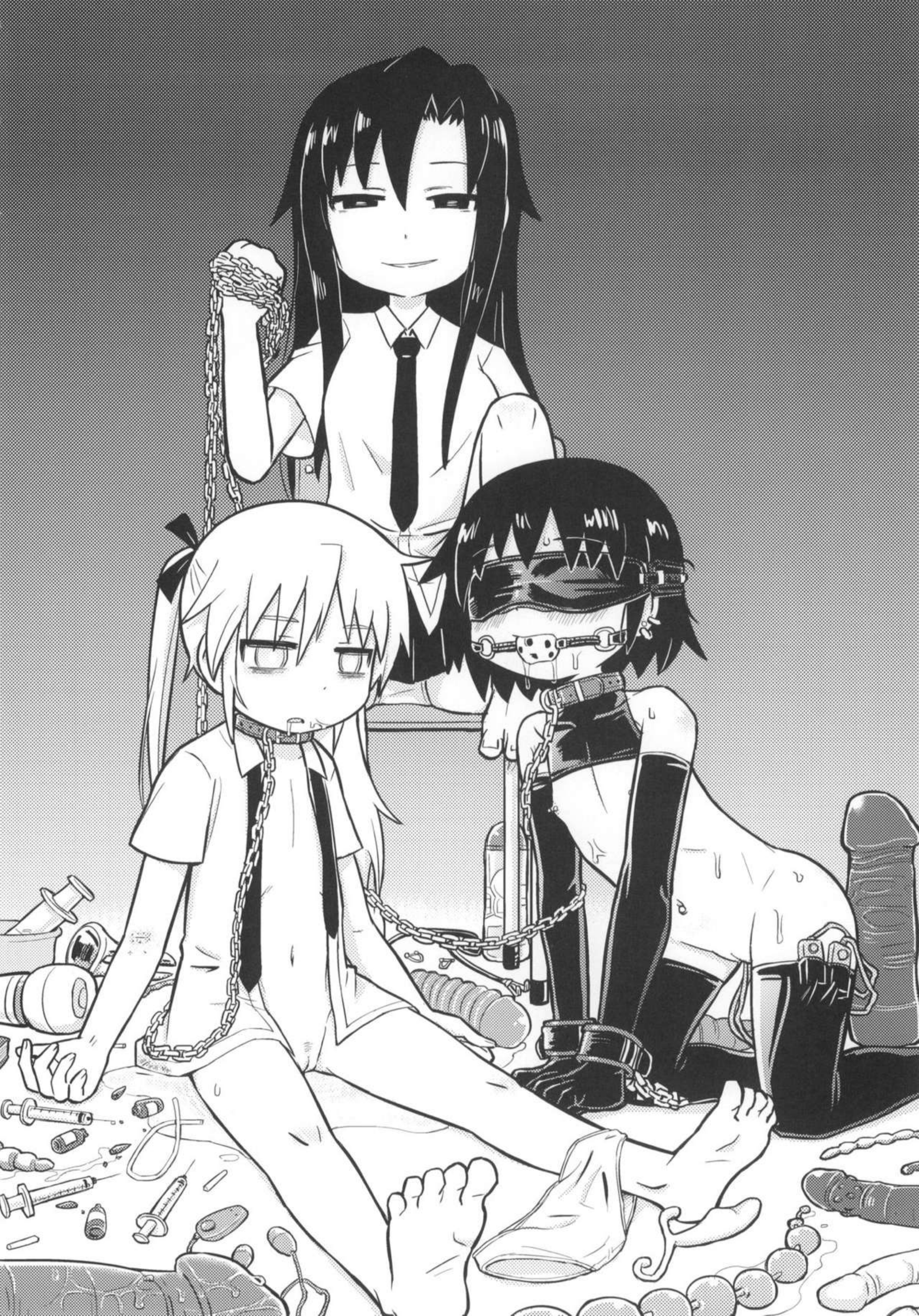


任務を失敗して  
お仕置きを受ける  
偽あぎりさん



←この妄想をする  
偽あぎりさん













あん

あん

ソニーちゃん

気持ちいい

大きいよ

いっぱい出たね  
ソニーちゃん

幸せそうな  
顔してたよ

やすな

子供

子供  
産んでくれ!

やすなと私の  
子供だ

まだ必要か  
やすな

必要なら  
もつと精子を  
入れてやるぞ

ほんと!?

じゃああと  
3回!

わがままな  
やつだな

あつち  
だよ

ソニー  
ちゃん

やすな

やすな









ソーニャちゃん

明日  
ランドセル  
買いた行こうね

バカか  
お前は

話が  
早すぎる

第一  
性別も何も  
わかってないだろ

双子だよ  
双子

女の子と  
男の子

何を根拠に  
言ってるんだ

何でって

私と  
ソーニャちゃん  
子供だよ

可愛いに  
決まってるじゃん

質問の答えに  
なっていない



も

どうだって  
いいじゃん

えっこの時くらい  
頭空っぽにしよう  
よ

ほらほら  
うりうり



ほら  
赤ちゃん達が  
応援してるよ  
ソーニャちゃん

ほらっ  
ほらっ

頑張っ  
て  
ソーニャちゃん

ああっ  
また出てる

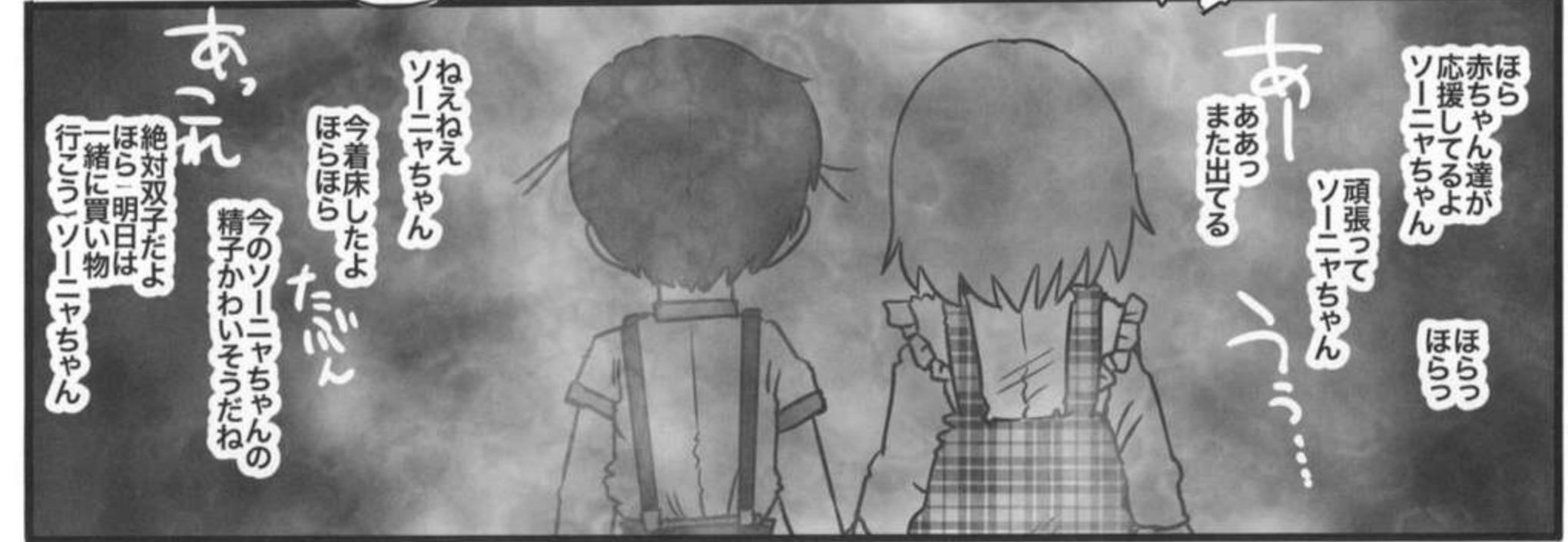
ねえねえ  
ソーニャちゃん

今着床したよ  
ほらほら

今のソーニャちゃんの  
精子がわいそうだね

あ、ね

絶対双子だよ  
ほら、明日は  
一緒に買い物  
行こう、ソーニャちゃん



おわり









キルミードスケイパー-SUPER

# 奥付

発行 2019年 8月10日  
コミックマーケット96

責任編集 ガビヨぬの  
サークル スミカラスミマデ  
mail:gabyo@pi.highway.ne.jp  
twitter gabyo\_nn  
印刷 金沢印刷様





SUPER